

# 1 常総市の位置・歴史

面積	市域の広ぼう		位置		
	東西	南北	東経	北緯	標高
123.64km <sup>2</sup>	約10km	約20km	139° 59′	36° 1′	12. 825m

(注1)位置の数値は、市役所所在地(常総市水海道諏訪町3222番地3)による  
 (注2)令和2年4月1日現在

資料:総務課



**市役所所在地**

**常総市役所**  
 〒303-8501  
 茨城県常総市  
 水海道諏訪町3222番地3

**石下支所**  
 〒300-2793  
 茨城県常総市  
 新石下4310番地1

## 【常総の歴史】

太古の水海道地方では、採集経済の成立により、鬼怒川西方台地上にいわゆる縄文人と呼ぶ人々の生活が営まれます。また、古墳時代の出土品からは大和朝廷の支配が当地に及んでいたことがうかがえます。

奈良時代になると、現在の千葉県市川市に国府を置く下総の国に所属。平安時代には鬼怒川両岸に定着して墾田を行う集落も出始めます。大生郷天満宮をはじめとする神社ができたのもこの時代で、水海道という地名は、平安時代の武将、坂上田村麻呂がこの地で馬に水を飲ませた（水飼戸【ミツカヘト】）という故事に由来するといわれています。

鎌倉時代の当地は、農業経営の成立が古文書（年貢帳）から垣間見える一方、浄土宗を中心に新しい仏教文化が展開し、多くの寺院が建立されました。

江戸寛永年間（1624年～43年）には、関東郡代伊奈家3代にわたる河川改修事業により鬼怒川が利根川と直結。水海道は江戸と下総、下野、会津方面を結ぶ水上輸送の中継地として栄えることとなります。

明治維新後の明治8年（1875）、当地は茨城県の管轄下に入ります。同23年には町村制のもと、現在の水海道市の母体となる旧1町9カ村が発足。大正2年（1913）には常総鉄道（関東鉄道）が開通し、従来の船便に代わる軌道交通が当地の経済発展を大きく促しました。

昭和に入ると、日本は明治以来の対外膨脹政策のなか、不幸な戦争の歴史へと突き進み昭和20年（1945）に終戦を迎えます。日本が真の民主主義国家としてその歩みを始めるなか昭和29年（1954）、水海道町と豊岡村、菅原村、大花羽村、三妻村、五箇村、大生村、坂手村の7カ村が合併して市制施行。翌30年に真瀬村と十和村の一部を、31年に菅生村と内守谷村を編入し、平成18年（2006）水海道市と石下町が合併して現在の常総市の市域となっています。